

NIEで道新見学!

北海道新聞

号外

2006年

6月29日 木

発行所

北海道新聞社

〒060-8711

札幌市中央区大通西3丁目-6

電話 011(221)2111

NIE推進センター

電話 011-210-5802

ホームページ

www.doshin-nie.com

フムフム館

〒061-1274

北広島市大曲工業団地 8-2-1

電話 011(370)3737

新聞づくりを知る

教育大生 新聞社見学



道新釧路支社を見学する教育大生

6月24日、釧路大の学生が北海道新聞釧路支社を見学した。今回は新聞ができるまでの過程の見学で

あり、同校の講義であるNIEの活動の一貫として行われたものである。「実際に新聞社に行ったことがないので、普段見ている新聞がどのように作られているのかを見学できるのは楽しみ」と、胸をはりませる学生。

次に見学したのは、大型な機械を使い、アルミ版に焼き付ける作業をする製版部。そして、印刷機である。一つ一つの目で見て確認する作業もなかにはある。また、紙の傷を確認する機械やカラー印刷にする機械などがある。印刷から、新聞ができるまでは約25分で、その間大型機械は連動して動いている。

「猛スピードで完成していく新聞にとっても驚いた。新聞ができるには、様々な苦労もあることを知った。」と今回の見学を通じて、新聞について考え直した学生も多いようだ。(佐藤真奈美)

北海道新聞報道部記者

久田 徳二さん

6月22日、NIEの授業の一貫で、釧路大に北海道新聞報道部記者である久田徳二さんが来た。彼は現在道新釧路支社の社員の一人として

記者として語る

働いている。彼は大学時代、農学部で農業に関する研究をしながら、学祭と農業系のサークルに夢中になっていた。そんな久田さんが新聞記者



これからも記事を書き続け、その後は北海道にいたすわりたいと考えている。(金子直美)

選んだ理由は、道新の自由な論調に魅力を感じたからだった。新聞記者は、電話一本で現場に直行することもあるため、まるで長時間仕事をしているような気が抜けない仕事だ。しかし久田さんは多くの人のさまざまな出会いを体験できると、記者ならではの良さを感じている。また、新聞の内容はネットでも配信されているが、新聞は人を傷つけるような文はなく、よくまとまっております。世の中のすべてを見渡せることができると新聞の良さも語っていた。